

南部地区担当TACの山口です。皆さんは「緑肥（りょくひ）」を使ったことはありますか？緑肥は作物を収穫せずにすき込むことで、次作の肥料として利用することができます。しかし緑肥といっても種類がとても多く、その種類によってさまざまな効果が得られます。今回は代表的な緑肥の特徴について紹介したいと思います。

### ●ソルゴー／ソルガム（イネ科）

**播種時期：5月～8月**

草丈が高く、すき込んだ際の有機物補給効果がとても高い。また、刈り取りをして圃場外に持ち出すことで、過剰な肥料を吸い上げる効果がある。アブラムシ類に対してのバンカークロップ（天敵のすみか）としても有効。播種量は10aあたり4kg～5kg程度。

### ●大麦（イネ科）

**播種時期：4月～6月**

根菜類の敵、カタネグサレセンチュウの抑制効果がある。最近では背が低い品種がリビングマルチとして利用され、畝間の雑草抑制としても利用される。

### ●ヘアリーベッチ（マメ科）

**播種時期：9月～11月**

マメ科の植物は、根粒菌によって空気中の窒素を地中に固定する効果がある。（以降マメ科作物は同様効果）ヘアリーベッチは特に窒素含量が高く、耐寒性も高いことから、レンゲに代わり水稻の裏作として利用されることが多くなった。播種量は10aあたり3kg～5kg程度。

### ●クローバー（マメ科）

**播種時期：3月～5月、9月～11月**

ダイズシストセンチュウを抑制する効果がある。主に休耕地などのグランドカバーとして利用され、土埃の防止や、日光遮断による雑草抑制効果がある。シロクローバーが一般的に利用されているが、クリムソクローバーは別名『ストロベリーキャンドル』とも呼ばれ、景観目的でも利用される。播種量は10aあたり2kg～4kg程度。



クリムソクローバー

### ●セスバニア（マメ科）

**播種時期：6月～7月**

根が1m以上伸びることで、畑の透水性改善効果がある。草丈がかなり高くなるため、緑肥としての効果も高い。播種量は10aあたり4kg～5kg程度。

緑肥を有効に活用することで、農薬とは異なる効果で畑の問題を解決してくれるかもしれません。上記以外にもさまざまな種類の緑肥がありますので、皆さんも栽培してみてくださいはいかがでしょうか。